

平成26年度
佐賀きのこ会年報



(ハルシメジ：2012. 4月 佐賀市金立梅林)

平成27年4月

虹の松原のきのこ

佐賀きのこ会 会長 蒲原 邦行

唐津市の虹の松原は、わが佐賀きのこ会のホームグレンデであり、林業試験場でショウロの発生試験で関わるようになってから、26年通っている場所です。面積は約200haありますが、クロマツ主体の人工林で、通常の森林と比較すると極めて貧栄養の環境です。

当地では、現在126種類のきのこが確認されていますが、その63%がクロマツなどの樹木との共生菌（菌根菌）であることから、その過酷な環境が推測されます。

虹の松原のきのこの役割区分

区 分	種数	割合
菌根菌	80	63%
木材腐朽菌	21	17%
腐生菌	24	19%
菌寄生菌	1	1%
計	126	



菌根菌の遷移

初期（腐蝕層少）	中期（腐蝕層中）	終期（腐蝕層多）
ショウロ アミタケ ハツタケ コツブタケ	キツネタケ ウラムラサキ ヌメリイグチ チチアワタケ	ベニタケ属（クロハツなど15種） テングタケ属（16種） 両種で松原全種の約25%を占める

※参考文献 小川眞著 築地書館 炭と菌根でよみがえる松」

菌根菌の世界的権威の小川眞先生によると、きのこにも植物と同じように遷移（移り変わり）があり、砂地の初期のごく貧栄養の時期には、ショウロ、アミタケ、ハツタケ、コツブタケなどが発生しますが、ある程度腐植層（腐葉土）ができてくると、キツネタケ、ウラムラサキ、ヌメリイグチ、チチアワタケなどが発生し始めます。

腐植層が多くなると、クロハツなどのベニタケ属やテングタケなどのテングタケ属菌が増えてきます。現在両属に属するきのこが全体の25%（31種）あり、かなり富栄養化が進んで来ており、この先腐生菌に移行して行くものと推測されます。

当地では、現在、昔ながらの白砂青松を取り戻そうと、除草や松葉かき、侵入広葉樹の除去などが行われており、少しずつ腐植層が取り払われています。小川先生によると、クロマツは共生菌が無くなると樹勢が弱くなるそうで、貧栄養状態を保ち、共生菌が多くなることがクロマツにとっても良好な状態だそうです。樹木医の世界では、樹勢の弱った庭木のクロマツにコツブタケの胞子懸濁液を散布することによって、菌根を形成させ、クロマツの樹勢を回復させる方法も取られているそうです。

当会会員の久原重松先生は、果樹の品種改良の研究をされていましたが、桃の苗木にバラ科樹木の菌根

菌のハルシメジの胞子を接種し、菌根を形成させることによって、苗木の生長が3倍程度に促進されることを証明されました。このことから、樹木と菌根性きのこの関係の重要性が分かります。

虹の松原のきのこ食毒区分

区 分	種数	割合
食べられるきのこ	28	22%
従来食べられるとされていたが注意を要するきのこ	6	5%
生食すると中毒するきのこ	1	1%
毒きのこ	28	22%
猛毒のきのこ	7	6%
食毒不明あるいは食用にされないきのこ	56	44%
計	126	

虹の松原のきのこの季節区分

区 分	種数	割合
夏のきのこ	58	46%
秋のきのこ	47	37%
冬のきのこ	6	5%
春と秋年に2回見られるきのこ	2	2%
年間を通して見られるきのこ(硬質菌など)	12	15%
多年生のきのこ	1	1%
計	126	

きのこといえば、普通の人は食べられるか否かが最大の関心事だと思いますが、全国で現在分かっているだけで、おおざっぱに言って食べられるきのこ約200種、毒きのこが約200種で、その他は食に適さないか食毒不明のきのこと言われていました。

虹の松原に限って言うと、食べられるきのこは約2割で、毒きのこあるいはそれに属するきのこは約3割5分、その他は食に適さないか食毒不明のきのこに区分されます。

通常、きのこと言えば秋を連想しますが、当地では半分近くが夏に発生します。これは、夏に発生するテングタケ属菌やベニタケ属菌が多いことが要因で、松原の環境の変化が影響しているようです。

当地のきのこを、いくつか紹介すると、虹の松原のきのこといえば「ショウロ」が目に見え、切っても切れないきのこであり、あの有名な唐津銘菓「松露饅頭」のモデルにもなっているきのこです。

春と秋にこのキノコを見ることができます。菌根を形成したクロマツの周囲に、しばしば菌輪をえがいて発生することから、このキノコを一個見つけると、同じ円周上を探せば、数個のショウロを採ることができます。

普通のキノコは、風によって胞子を遠くへ飛ばしますが、このキノコの仲間は、独特の異臭を放つ「グレバ」というねばねばした粘液を出し、ハエなどの昆虫を呼び寄せます。



その物質と一緒に胞子を放出して昆虫に食べさせ、胞子を運搬させる変わり者のキノコです。

子実体はスポンジ状で、地元では中が白いうちは米ショウロと呼び食用にしますが、成熟して暗褐色になると「麦ショウロ」と呼び、食べられなくなります。最後は、暗褐色の粘液状になって崩れてしまいます。独特の香りとシャリシャリした歯触りが吸い物に最適です。スライスして卵焼きに入れると、また一層おいしく食べられます。

シモコシも昔からキンタケと呼ばれ、美味しいきのことして地元の人達にも親しまれてきましたが、近年になってヨーロッパで同種又はごく近縁種で死亡を含む中毒例が出て、毒きのこに分類されるようにな

りました。毒きのこに指定される大分前に食べたことがあります。コリコリした食感がしたように記憶しています。今でも、他県のきのこ愛好者が採取して食べているみたいです。数年前急性脳症で死亡者が出たスギヒラタケも、以前は良質な食用きのことして認知されていて、数県の林業試験場で人工栽培が研究されていました。このきのこは、腎臓機能が低下した人が食すると問題のようです。

イグチの間では、アマタケが安心して食べられます。火を通すと薄紫色に色が変わり、彩りが楽しめます。アマタケと一緒にしばしば採取できるのがオウギタケでこれも美味しいきのこです。同じ菌根菌同士で共生しているようで、写真のようにくっついて生えているのを採集したこともあります。



アマタケ



左アマタケ、右オウギタケ

ハツタケは、食感はボソボソした感じですが、コックリしたいい出汁が楽しめます。虹の松原には、マツタケも立ちます。通常マツタケはアカマツに菌根を形成しますが、一部はクロマツなどにも菌根を形成し、きのこを作ります。写真のマツタケは季節はずれの12月上旬に、アカマツに立ったマツタケで、小川眞先生が虹の松原を訪られた時に、地元の人に案内して貰って田中前会長が発見されたものです。



左オウギタケ、右アマタケ



ハツタケ

20年くらい前に、林業試験場在職中にマツタケの発生調査をしていましたが、標高が400m位の場所では、10月中旬が発生ピークでしたので、驚いたところです。これは、松原内に一部占めているアカマツ林で採集したものです。

最近になって、山川 続氏によって、ホンシメジも確認されました。通常、コナラ林やアカマツとコナラの混交林に発生し、マツタケより若干遅く発生しますが、これは11月23日に確認されています。

昔から、香りマツタケ、味シメジといって、きのこの中でも最も美味しいとされてきたきのこで、昨年の年報で紹介したように、人工栽培が可能になりました。

当松原では、カキシメジも時々確認されます。通常、カキシメジは毒きのことして知られています。松林のカキシメジは中毒しないとされ、松林型として通常のカキシメジとは別種の可能性があると言われてきましたが、私には食べる勇気はありません。(笑)



マツタケ



ホンシメジ 写真撮影：山川 統氏



カキシメジ (松林型)



シロウロコツルタケ(フクロツルタケ)

近年、当松原では腐植層(腐葉土の部分)の増加とともに、テングタケ科のきのこが増えてきています。その中でも死亡例がある猛毒のきのこがシロウロコツルタケで、つい最近まではフクロツルタケと呼んでいましたが、新分類でシロウロコツルタケと呼ぶようになりました。

このきのこは、佐賀市の森林公園など非常に身近な場所でも立ちますので、ドクツルタケやシロタマゴテングタケと同様に地面から生えている「白いきのこ」は要注意です。

きのこに寄生する珍しいきのこもあります。ベニタケ属などのきのこに寄生するヤグラタケがそうで、写真はクロハツの老菌に立ったヤグラタケです。菌根菌や腐生菌が占める松原のきのこでは、希少な種類のきのこです。



ヤグラタケ



クロハツ

冒頭に触れたように、現在126種のきのこが確認されていますが、県内で確認されているきのこの約1/5に当たります。植生も単純な200haあまりの森林にしては、観察回数の多さはありますが、多くのきのこが観察されています。今後も、観察者の増加により、確認数が増えるのを期待しています。

虹の松原のきのこ一覧

平成26年9月1日改訂 きのこアドバイザー 蒲原邦行

No	和名	採集(確認)日	採集(確認)地	採集(確認)者名	同定者名	菌根・腐生性の別
1	アカハツ	2000.10.12.10/25~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
2	アイタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	菌根
3	アカカバイロタケ	2008.10/25	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司・蒲原邦行	菌根
4	アスマタケ	2006.10/22~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司	腐生
5	アマタケ	2006.10/22~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司	腐生
6	アマタケ	1988.12/5~	虹の松原	井上千鶴・牛島・古賀・小宮	井上千鶴・河野洋輔	菌根
7	アラゲキクラゲ	2009.9.6~	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
8	アンスタケ	2008.9/23	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根
9	イボタケ	2000.10/25, 2006.10/22	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根
10	イボテングタケ	2004.10/16~	虹の松原	きのこ観察会	長沢 栄史	菌根
11	イロガワリベニタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	菌根
12	ウスキテングタケ	2001.7/2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	菌根
13	ウスムラサキハツ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	菌根
14	ウラムラサキ	2000.9 2008.9/23~	虹の松原	蒲原邦行	長澤栄史	菌根
15	エリマキツチグリ	2000.10.12.12.18.,2001.5.24.7.20	虹の松原	真松光男・小宮久幸	真松光男・小宮久幸	菌根
16	オウキタケ	1989.4/6~2001.2/18~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根
17	オオキツネタケ	2000.10/12/10/25~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
18	オオキノハダトマヤタケ	1989.4/6	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
19	オオササタケ	2000.12/18	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
20	オオシワタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
21	オシロイタケ	2008.9/23	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	腐生
22	オニフスベ	2006.10/22	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司	腐生
23	カキシメジ	2001.12.,2002.11/19~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔・長沢栄史	菌根
24	カバイロツルタケ	1989.4/6	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
25	カワリハツ	2008.9/6	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根
26	ガンタケ	2000.10/12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
27	キウロコテングタケ	2008.9/6~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根
28	キツネノカラカサ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	菌根
29	キチチタケ	2000.10/12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
30	キツネノカラカサ	2001.7/2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	腐生
31	キホコリタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	腐生
32	クサハツ	2006.10/22, 2008.9/6~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司	菌根
33	クロカワ	1995.11/16, 1996.11/12~	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
34	クロタマゴテングタケ	2001.7/2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	小宮・川崎・大橋・中島	菌根
35	クロハツ	2000.10/25~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
36	クロハツモドキ	2001.7/2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	小宮・川崎・大橋・中島	菌根
37	ケシロハツモドキ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	菌根
38	ケロウジ	2001.12.,2002.11/19, 2006.10/22~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔・長澤栄史	菌根
39	コオニイグチ	2001.7/2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	菌根
40	コガサタケ	1989.1/29	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	腐生
41	コタマゴテングタケ	2008.10/23	虹の松原	芦刈詔司・蒲原邦行	長澤栄史・芦刈詔司・蒲原邦行	菌根
42	コツチグリ	2001.5/24	虹の松原	小宮・川崎	小宮・川崎	菌根
43	コツブタケ	2000.10.,12.12/18., 2007.10/22~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根
44	コテングタケ	1989.10/8	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
45	コナカラカサタケモドキ	2001.7/2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	腐生
46	コフキサルノコシカケ	2006.10/22~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈詔司	腐生
47	サケバタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
48	ササタケ	1989.1/29.4/6~	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
49	ザラツキカタカワタケ	2011.6/19	虹の松原	山川統	長沢栄史	菌根
50	シハイタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
51	シミタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
52	シモコシ	1988.1/22, 12/9~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根
53	ショウロ	1989.10/3~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根
54	シラガツバフウセンタケ	2000.10/25	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
55	シロアミタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
56	シロウロコツルタケ (コタマゴテングタケ)	1989.10/8, 2008.9/6, 2008.9/23~	虹の松原	井上千鶴・蒲原邦行	井上千鶴・河野洋輔	菌根
57	シロオニタケ	1989.10/8	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根
58	シロシメジ	2001.12.,2002.11/19	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔・長沢栄史	菌根
59	シロタマゴテングタケ	2008.9/6	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根
60	スエヒロタケ	2009.9/6~	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野富男・鈴木敏雄	腐生
61	スケヤマドリタケ	2004.10/16, 2008.9/6~	虹の松原	きのこ観察会	長澤 栄史	菌根
62	スナシアセタケ	2004.10.19	虹の松原	河野洋輔	河野洋輔	菌根
63	セイタカノウタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	腐生
64	タゲリタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会佐賀きのこ会	山川統	腐生
65	タヌキノチャブクロ	2000.10/25	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	腐生
66	タマゴテングタケモドキ	2000.10/12	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根
67	タマネギモドキ	2000.10/12	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根

68	チチアワタケ	2000.10.12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根	
69	チビホコリタケ	2004.10.19	虹の松原	河野洋輔	河野洋輔		腐生
70	チャハリタケ	2000.10.25	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根	
71	チャミダレアミタケ	2009.9.6	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野藩男・鈴木敬雄		腐生
72	ツチグリ	2000.10.25~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根	
73	ツチグリカタカワタケ	2006.10.22, 2008.9.6~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈昭司	菌根	
74	ツノマタタケ	2000.10.25	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮		腐生
75	ツルタケ	2000.10.12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根	
76	テングタケ	1989.10.8~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根	
77	テングタケダマシ	2008.9.6, 2008.9.23~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根	
78	ドウシシタケ	2000.10.12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根	
79	トキイロラッパタケ	2010.11.14~	虹の松原	佐賀きのこ会	長澤栄史	菌根	
80	ドクベニタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	山川統	菌根	
81	トフタケ	1989.1.29	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴		腐生
82	ナカグロキツネノカラカサ	2000.10.12, 12.18, 2001.5.24, 7.20	虹の松原	貞松光男, 小宮久幸	貞松光男, 小宮久幸		腐生
83	ナカグロモリノカサ	2009.9.6~	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野藩男・鈴木敬雄		腐生
84	ニオイコベニタケ	2001.7.2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	菌根	
85	ニセフウセンタケ	2004.10.19	虹の松原	河野洋輔	河野洋輔	菌根	
86	ニセマツカサシメジ	1988.12.9, 2000.12.18~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他		腐生
87	ニッケイタケ	2001.7.2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	小宮・川崎・大橋・中島	菌根	
88	ニワタケ	2008.10.23~	虹の松原	芦刈昭司・蒲原邦行	長澤栄史・芦刈昭司・蒲原邦行		腐生
89	ヌメリイグチ	1989.10.8~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根	
90	ヌメリニガイクチ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	山川統	菌根	
91	ノウタケ	2006.10.22~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈昭司		腐生
92	ハエトリシメジ	1996.11.12	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根	
93	ハツタケ	1989.10.3~	虹の松原	井上千鶴他	井上千鶴他	菌根	
94	ハナヒラダクリオキ	2001.5.24~	虹の松原	小宮・川崎	河野洋輔		腐生
95	ヒイロタケ	2000.10.25, 2006.10.22~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮		腐生
96	ヒトクチタケ	2009.9.6~	虹の松原	西日本きのこ同好会	川口・沖野藩男・鈴木敬雄		腐生
97	ヒナノヒガサ	2000.10.25~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔		腐生
98	ヒメカバイロタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	山川統		腐生
99	ヒメキツネタケモドキ	2008.9.23	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根	
100	ヒメコガネツルタケ	2008.9.6, 2008.9.23~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根	
101	ヒメコナカプリツルタケ	2008.10.23	虹の松原	芦刈昭司・蒲原邦行	長澤栄史・芦刈昭司・蒲原邦行	菌根	
102	ヒロハチチタケ	2000.10.12, 2008.9.6~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔	菌根	
103	フサヒメホウキタケ	1996.5.12	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴		腐生
104	ブドウタケ	2000.12.18, 2001.7.2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔		腐生
105	ブドウニガイクチ	2001.7.2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	菌根	
106	フユヤマタケ	1989.1.29	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴	菌根	
107	ベニヒガサ	2008.10.23, 2014.7.20~	虹の松原	芦刈昭司・蒲原邦行	長澤栄史・芦刈昭司・蒲原邦行		腐生
108	ヘビキノコモドキ	2008.9.6, 2008.9.23~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根	
109	ホコリタケ	2000.10.12, 12.18~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮		腐生
110	ホンシメジ	2010.11.23	虹の松原	山川統	長澤栄史	菌根	
111	ホンショウロ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	長澤栄史	菌根	
112	マゴジャクシ	2006.10.22	虹の松原	きのこ観察会	芦刈昭司		腐生
113	マツオウシ	1989.7.22~	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴		腐生
114	マツカサタケ	1998.1.22~	虹の松原	井上千鶴	井上千鶴		腐生
115	マツカサキノコモドキ	2000.12.18~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	河野洋輔		腐生
116	マツタケ	1999.11.14, 2007.11.11	虹の松原	芦刈昭司・田中昭・蒲原邦行	井上千鶴・芦刈昭司・蒲原邦行	菌根	
117	マツノタバコウロコタケ	2004.10.19	虹の松原	河野洋輔	河野洋輔		腐生
118	マツバハリタケ	2001.12~	虹の松原	蒲原邦行	河野洋輔	菌根	
119	ミカウクローミアシグチ	2004.10.19	虹の松原	河野洋輔	河野洋輔	菌根	
120	ミスゴケノハナ	2008.10.25~	虹の松原	きのこ観察会	芦刈昭司・蒲原邦行		腐生
121	ムササヒタケ	2001.7.2	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔		腐生
122	ムラサキカスリタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	山川統	菌根	
123	ムラサキナギナタタケ	2000.10.12~	虹の松原	牛島・古賀・小宮	牛島・古賀・小宮	菌根	
124	ヤグラタケ	2008.10.23~	虹の松原	芦刈昭司・蒲原邦行	長澤栄史・芦刈昭司・蒲原邦行		腐生
125	ヤマドリタケモドキ	2001.7.2~	虹の松原	小宮・川崎・大橋・中島	河野洋輔	菌根	
126	ワサビカレバタケ	2014.7.20	虹の松原	長崎きのこ会, 佐賀きのこ会	山川統		腐生

凡例

- 食べられるきのこ
- 従来食べられるとされていたが、国内・外国等で最近中毒例が報告され、注意を要するきのこ
- 生食すると中毒するきのこ
- 毒きのこ
- 猛毒のきのこ
- 食毒不明あるいは食用にされないきのこ

- ※ 食用きのこの表示は、山溪フィールドブックス「きのこ」による
- ※ 毒きのこの表示は、Gakken フィールドベスト図鑑「日本の毒きのこ」による
- ※ きこのリストは佐賀県稀少野生生物調査「菌類」のデータ及び観察会等データによる
- ※ 菌根性、腐生性の別は、(財)日本きのこセンター 菌じん研究所 長澤栄史氏のデータによる

80種 46種

(63%) (37%)